

世 界 史 B

(解答番号 1 ~ 36)

第 1 問 世界史上の帝国の支配とその影響について述べた次の文章A～Cを読み、下の問い合わせ(問 1～9)に答えよ。(配点 25)

A ①2世紀末にコンモドゥス帝が殺害されると、ローマ帝国は内乱状態となっていった。この混乱を収めたのは、ドナウ川流域の属州総督であったセプティミウス=セウェルスである。彼は、首都ローマを制圧して皇帝となると、帝国各地や国外へ積極的に遠征した。帝国東部では、皇帝を称していた人物を倒し、さらに、ユーフラテス川を越えて、②パルティアに攻め込んだ。帝国西北部では、反旗を翻した有力総督を討ち、その後、③ブリテン島の北部に遠征した。こうして、セウェルスは、動搖した帝国を建て直すことに成功したが、一方で、ローマ帝国の支配領域の拡大は、周辺勢力との抗争の激化にもつながっていった。

問 1 下線部①の時期の出来事について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。1

- ① ハルシャ=ヴァルダナが、北インドを統一した。
- ② 赤眉の乱が起こった。
- ③ ローマ帝国で、キリスト教が公認された。
- ④ 大秦王安敦の使者と称する者が、日南郡(現在のベトナム中部)に到着した。

問2 下線部②の国の歴史について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 2

- ① クテシフォンを都とした。
- ② 中国では、安息と呼ばれた。
- ③ ダレイオス1世の時代に、最盛期を迎えた。
- ④ ササン朝に滅ぼされた。

問3 下線部③の島の歴史について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 3

- ① ローマが、ポエニ戦争で、一部を属州とした。
- ② アングロ＝サクソン人が、ノルマンディー公国を建てた。
- ③ アルフレッド大王が、侵入したアヴァール人と戦った。
- ④ ヘンリ2世が、プランタジネット朝を開いた。

B ④ハプスブルク家は、数百年にわたり、ウィーンを中心として、ヨーロッパの広大かつ文化的に多様な地域を支配してきた。20世紀に入り、彼らを君主とする帝国が解体した後も、この都市が持つ輝きは失われず、現在でも多くの⑤旅行者が訪れている。またウィーンには、幾つかの国連機関が拠点を置いているが、それには、オーストリアが1950年代以降、永世中立国であることも関係していた。その首都ウイーンへの国連機関の設置は、⑥冷戦が激しかった時期においては、東西両陣営の理解を得られやすかったのである。

問4 下線部④の君主の事績について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 4

- ① ヨーゼフ2世は、啓蒙専制君主として、諸改革を推し進めた。
- ② エドワード3世は、フランス王位の継承権を主張して、百年戦争を始めた。
- ③ フリードリヒ2世(大王)は、サン=スーシ宮殿を建てた。
- ④ フリードリヒ=ヴィルヘルム1世は、軍備を増強し、絶対王政の基礎を築いた。

問5 下線部⑤に関連して、旅行に関する書物について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 5

- ① ミルトンが、『ロビンソン=クルーソー』を著した。
- ② スワイフトが、『ガリヴァー旅行記』を著した。
- ③ 仏國澄が、『南海寄帰内法伝』を著した。
- ④ 孔穎達が、『仏国記』を著した。

問6 下線部⑥について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 6

- ① 金日成を首相として、朝鮮民主主義人民共和国の成立が宣言された。
- ② 1949年に、ドイツ民主共和国の成立が宣言された。
- ③ ポツダム会談によって、冷戦が終結した。
- ④ アメリカ合衆国が、トルーマン=ドクトリンを発表した。

C ⑦オーストラリアでは、18世紀のイギリス人による入植以来、長らく人口の大半がイギリス系移民とその子孫であった。20世紀後半からは、アジア系移民などの非イギリス系の人々が増加しているが、英語が⑧公用語として用いられている。かつてイギリス帝国の⑨植民地であった名残やその影響は、言語だけでなく、国家元首がイギリス国王である点や、イギリスから二大政党制と議院内閣制を受け継いでいる点など、政治制度にも見られる。

問7 下線部⑦に関連して、次の年表に示したa～dの時期のうち、オーストラリア連邦が成立した時期として正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

7

a

1783年 アメリカ合衆国の独立が承認される

b

1837年 ヴィクトリア女王が即位する

c

1877年 インド帝国が成立する

d

① a

② b

③ c

④ d

問8 下線部⑧について述べた次の文aとbの正誤の組合せとして正しいものを、

下の①～④のうちから一つ選べ。 8

- a ビザンツ帝国では、公用語がギリシア語からラテン語となった。
- b ムガル帝国では、ペルシア語が公用語として用いられた。

- ① a－正 b－正
- ② a－正 b－誤
- ③ a－誤 b－正
- ④ a－誤 b－誤

問9 下線部⑨に関連して、世界史上の植民地について述べた文として正しいもの

を、次の①～④のうちから一つ選べ。 9

- ① ジョゼフ=チェンバレンが、アメリカ合衆国の植民相(植民地相)となった。
- ② トゥサン=ルヴェルチュール(トゥサン=ルーヴェルチュール、トゥサン=ルーヴェルテュール)が、アルジェリアで反乱を起こした。
- ③ ホセ=リサールが、フィリピンの民族運動を指導した。
- ④ ネルーが、マレーシアの独立を指導した。

第2問 世界史上の港町について述べた次の文章A～Cを読み、下の問い合わせ(問1～9)に答えよ。(配点 25)

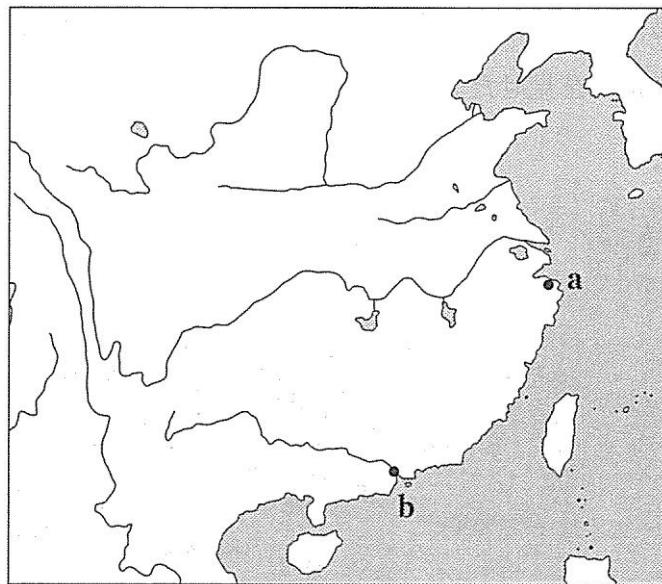
A 泉州は、唐代中頃から、①南海貿易の中心となった②港の一つである。泉州には、様々な出自・信仰を持つ外来商人が住み着いた。ここを拠点に長年にわたつて胡椒貿易に関わった蒲寿庚も、アラブ系もしくはペルシア系ムスリム商人とされている。元朝は、蒲寿庚の持つムスリム商人の貿易ネットワークを利用して、南海諸国に対し朝貢を勧誘して貿易を促進した。このことは商船の誘致にもつながり、13世紀、泉州は東アジア海域と③インド洋方面との結節点として、繁栄した。

問1 下線部①に関連して、世界史上の交易について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 10

- ① アラム人は、海上交易で活躍した。
- ② ガーナ王国は、金と塩(岩塩)を交換する交易を行った。
- ③ マラッカ王国は、海上交易で栄えた。
- ④ メッカは、隊商交易で栄えた。

問2 下線部②に関連して、海外貿易で繁栄し、18世紀後半にはヨーロッパ船の貿易港にも指定された都市の名と、その位置を示す次の地図中のaまたはbとの組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

11



- ① 広州—a ② 広州—b
③ 寧波(明州)—a ④ 寧波(明州)—b

問3 下線部③に関連して、インド洋交易の拠点となったアフリカ東海岸の港町について述べた次の文aとbの正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

12

- a マリンディなどが、ムスリム商人による交易の拠点となった。
b ポンディシェリなどが、フランス東インド会社の拠点となった。

- ① a－正 b－正
② a－正 b－誤
③ a－誤 b－正
④ a－誤 b－誤

B 13世紀中頃、④ポルトガルは、大西洋に程近い港町リスボンに首都を移した。15世紀になると、エンリケ航海王子のアフリカ西岸航路開拓を経て、リスボンは海外進出の一大基地として、商業的にも発展した。さらに、16世紀に大西洋航路の開発が進むと、リスボンは、⑤アジア、アフリカ、アメリカにまで広がる世界貿易の拠点となり、地中海貿易の中心地であった⑥イタリアの諸港をしのぐほどに繁栄を見せた(下図参照)。

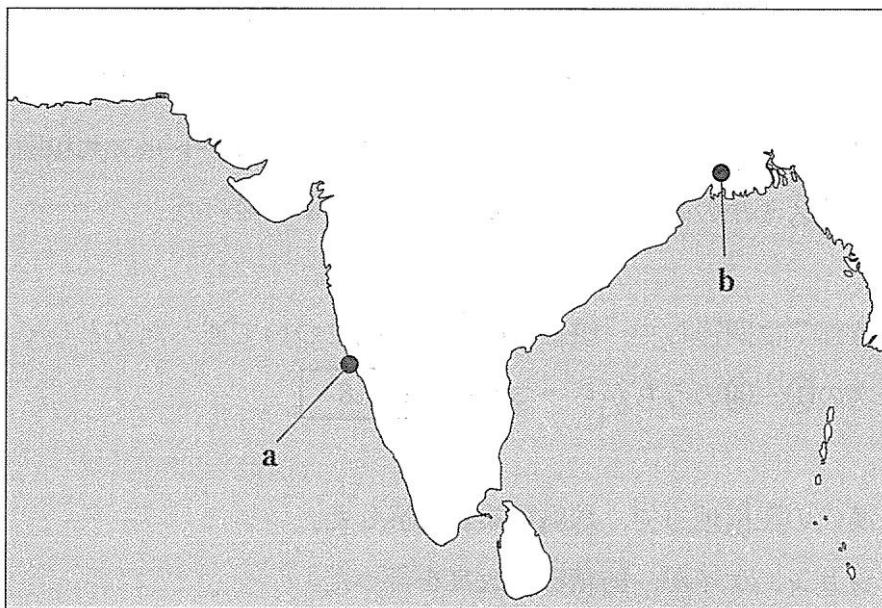


16世紀のリスボン

問4 下線部④の国の歴史について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 13

- ① トルデシリヤス条約を締結した。
 - ② フォークランド戦争(フォークランド紛争)が起こった。
 - ③ カルマル同盟を結成した。
 - ④ 第二次世界大戦で、ソ連に占領された。

問5 下線部⑤に関連して、ポルトガルがアジア進出の拠点とした都市の名と、その位置を示す次の地図中のaまたはbとの組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 14



- ① ゴア—a
- ② ゴア—b
- ③ カルカッタ(コルカタ)—a
- ④ カルカッタ(コルカタ)—b

問6 下線部⑥の地域の歴史について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 15

- ① ギリシア人が、南部に植民市を建設した。
- ② ランゴバルド王国が成立した。
- ③ メディチ家が、芸術家を保護した。
- ④ ヴィットーリオ=エマヌエーレ2世が、ローマ進軍を組織した。

C アナトリア(小アジア)西部の港町イズミル(スミルナ)は、オスマン帝国の支配下で、17世紀半ば以降、⑦イラン産生糸やアナトリア産綿花などをヨーロッパへ輸出する拠点として急速に成長した。国際的な一大商業都市に発展したイズミルには、⑧フランス人、イギリス人などの外国商人が多数居住した。しかし、ヨーロッパとの商取引を支配したのは、オスマン帝国内の非ムスリム商人であり、特にギリシア人は、綿花輸出において中心的な役割を果たした。⑨オスマン帝国から、ギリシアが独立した後も、ギリシア人は、トルコ共和国成立期に至るまで、イズミルの商業活動の主要な担い手であり続けた。

問7 下線部⑦に関連して、繊維の原料や製品について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 16

- ① 漢代の江南地方で、綿織物業が発展した。
- ② ジョン=ケイが、紡績機の改良を行った。
- ③ アメリカ合衆国南部では、綿花のプランテーションが発達した。
- ④ 18世紀後半に、ナイロン(合成繊維、石油を原料とした人工繊維)が開発された。

問8 下線部⑧に関連して、ヨーロッパ諸国の通商活動について述べた次の文aとbの正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

17

- a ヴェネツィアは、香辛料などを扱う東方貿易で繁栄した。
b ヨーロッパ諸国は、オスマン帝国と貿易する商人に、カピチュレーションを与えた。

- ① a－正 b－正
② a－正 b－誤
③ a－誤 b－正
④ a－誤 b－誤

問9 下線部⑨に関連して、次の年表に示したa～dの時期のうち、ギリシアがオスマン帝国から独立した時期として正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 18

a

1793年 セリム3世が、新軍團を創設する

b

1839年 タンジマート改革が始まる

c

1877年 ロシア＝トルコ戦争(露土戦争)が始まる

d

- ① a ② b ③ c ④ d

第3問 世界史上の軍隊について述べた次の文章A～Cを読み、下の問い合わせ(問1～9)に答えよ。(配点 25)

A 中世末期から近世初期のヨーロッパ諸国において、軍隊の主力は、戦時に際し臨時に雇用される傭兵ようへいだった。三十年戦争時、神聖ローマ皇帝軍として、スウェーデン国王 **ア** と戦った **イ** の軍隊は、その代表例である。ただし、こうした傭兵の雇用には多額の資金が必要であったため、経済的苦境に陥る君主・諸侯も多かった。その中には、1557年のスペインや①フランスのように、負債支払いを一方的に停止する例も現れている。それゆえ、諸国は②税制の整備を図る一方で、軍制そのものについても変革を模索するようになる。

問1 文章中の空欄 **ア** と **イ** に入る語の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **19**

- | | |
|---------------|-------------|
| ① アーミハイル=ロマノフ | イーリシユリュー |
| ② アーミハイル=ロマノフ | イーヴァレンシュタイン |
| ③ アーグスタフ=アドルフ | イーリシユリュー |
| ④ アーグスタフ=アドルフ | イーヴァレンシュタイン |

問2 下線部①の国の軍隊の歴史について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **20**

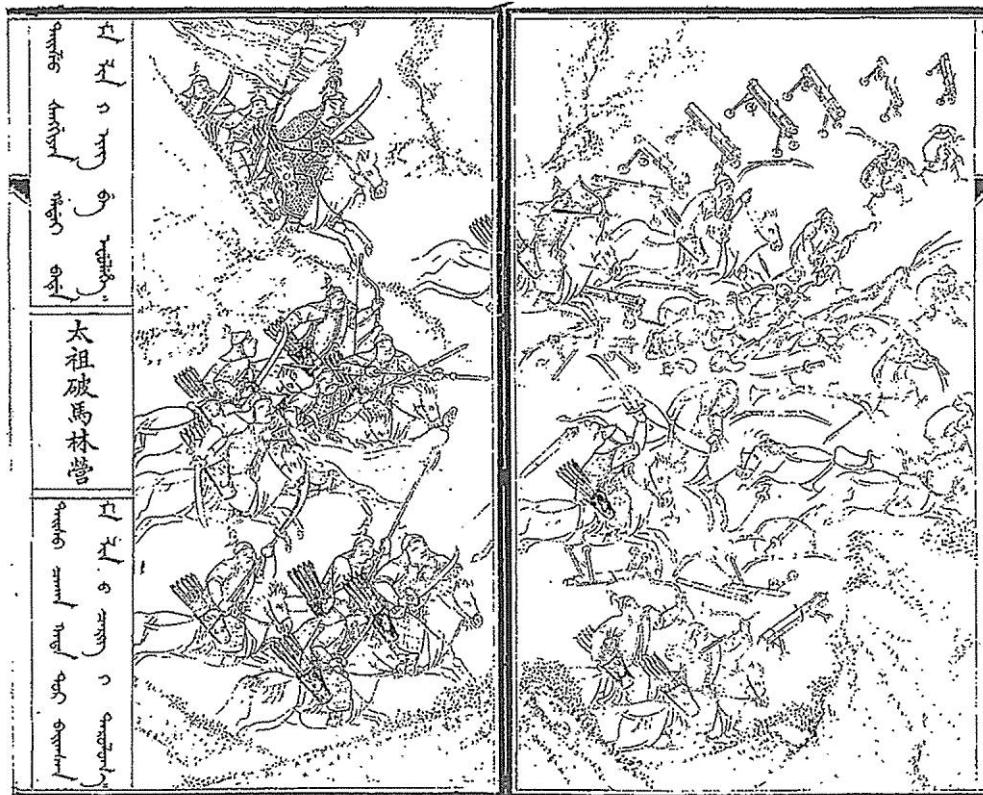
- | |
|------------------------------------|
| ① クレシーの戦いで、イギリス軍に勝利した。 |
| ② クリミア戦争で、ロシア側で参戦した。 |
| ③ プロイセン=フランス戦争(普仏戦争)で、プロイセン軍に勝利した。 |
| ④ ディエンビエンヌの戦いで、敗北した。 |

問3 下線部②について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

選べ。 21

- ① 後ウマイヤ朝では、イクター制が初めて実施された。
- ② 北宋では、賦役黄冊が作成された。
- ③ 植民地インドでは、ザミンダーリー制が運用された。
- ④ 「権利の章典(権利章典)」では、議会の承認なしでも、国王による課税が可能となった。

B 東アジアで発明され、ヨーロッパで改良された火器は、16世紀に再び東アジアにもたらされ、軍隊や戦術を大きく変えた。戦国時代の日本では、鉄砲が急速に広まったが、堅固な城壁を持つ③都市が発達していた中国では、ヨーロッパ式大砲も普及した。清(当初は後金)の建国の記録『満洲実録』には、アの軍隊が大砲や小銃などの火器を多数装備している様が描かれている(下図参照)。清側も、アの火器や城塞に対抗するため、主力軍隊であるイの中に、投降した漢人による砲兵部隊を創設した。しかし、野戦ではなお騎兵が有効であり、清と④遊牧国家ジュンガルとの戦争は、騎兵と火器の双方を用いて戦われた。



『満洲実録』に描かれたサルフの戦い(1619年)の一場面(左側が後金の騎兵)

問4 文章中の空欄 **ア** と **イ** に入る語の組合せとして正しいものを、次の
①～④のうちから一つ選べ。 **22**

- ① アー南 宋 イー猛安・謀克
- ② アー南 宋 イー八 旗
- ③ アー明 イー猛安・謀克
- ④ アー明 イー八 旗

問5 下線部③について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから
一つ選べ。 **23**

- ① アレクサンドリアに、アズハル学院(アズハル大学)が設けられた。
- ② アンコール=トムは、カンボジアのアンコール朝の都城であった。
- ③ ロンドンで、第1インターナショナルが結成された。
- ④ 景徳鎮では、陶磁器の生産が盛んであった。

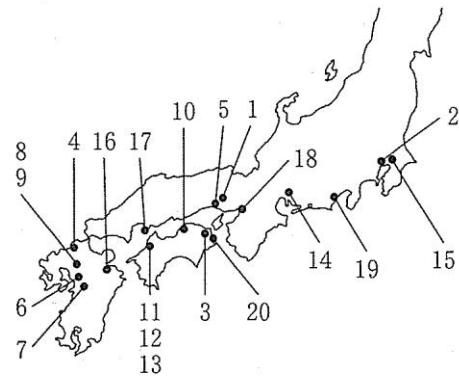
問6 下線部④について述べた次の文 a～c が、年代の古いものから順に正しく配
列されているものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 **24**

- a 西遼(カラ=キタイ)が、中央アジアで成立した。
- b 突厥が、エフタルを滅ぼした。
- c アッティラが、パンノニアを中心に帝国を建てた。

- ① a → b → c
- ② a → c → b
- ③ b → a → c
- ④ b → c → a
- ⑤ c → a → b
- ⑥ c → b → a

C 日本は、⑤第一次世界大戦に参戦し、ドイツが権益を持っていた山東半島の租借地である青島を攻略した。その際、ドイツ帝国及び⑥オーストリア=ハンガリー帝国の将兵が捕らえられ、日本の各地に収容された(下図参照)。幾つかの収容所では、⑦捕虜たちは、一定の自由が認められ、地元住民と交流した。この交流を通じて、ソーセージやバウムクーヘンといった食品をはじめ、数多くの文化が伝えられた。また、徳島県の板東では、ベートーヴェンの「交響曲第9番」が演奏されたことが知られている。

| | |
|--------|--------|
| 1 青野原 | 11 松 山 |
| 2 浅 草 | 12 松 山 |
| 3 板 東 | 13 松 山 |
| 4 福 岡 | 14 名古屋 |
| 5 姫 路 | 15 習志野 |
| 6 高良内 | 16 大 分 |
| 7 熊 本 | 17 似 島 |
| 8 久留米 | 18 大 阪 |
| 9 久留米 | 19 静 岡 |
| 10 丸 龜 | 20 徳 島 |



捕虜収容所の所在地

問7 下線部⑤について述べた次の文aとbの正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 25

- a 日本は、日英同盟を理由に参戦した。
 b アメリカ合衆国は、真珠湾攻撃をきっかけに参戦した。

- ① a - 正 b - 正
- ② a - 正 b - 誤
- ③ a - 誤 b - 正
- ④ a - 誤 b - 誤

問8 下線部⑥の領域にかつて含まれた国の歴史について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 26

- ① オーストリアは、ソ連に併合された。
- ② チェコスロvakiaは、ミュンヘン会談を経て、解体された。
- ③ ハンガリーは、1920年代に、社会主義国となった。
- ④ ボスニア・ヘルツェゴビナは、青年トルコ革命をきっかけに独立した

問9 下線部⑦について述べた次の文章中の空欄アとイに入る語の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 27

捕虜の待遇に関する条約は、1899年と1907年の二度にわたって、アで開催された万国平和会議で取り決められた。1907年の第2回会議には、イの皇帝である高宗が、密使を送り、日本による保護国化の不当性を訴えようとした。

- ① アーデュネーヴ イー清
- ② アーデュネーヴ イー韓 国
- ③ アーハーグ イー清
- ④ アーハーグ イー韓 国

第4問 世界史上の遊戯(ゲーム・競技)やその伝播と受容について述べた次の文
章A～Cを読み、下の問い合わせ(問1～9)に答えよ。(配点 25)

A 今日のチェス(西洋将棋)の原型となった遊戯は、インドで誕生し、東西に伝わったとされる。この遊戯で用いられる駒は、もともと王・司令官・象・騎兵・①戦車・歩兵を表していたが、伝播先の社会に馴染みの深い身分や役職に変化した。例えば、中世ヨーロッパでは、司令官駒は②女王駒に、象駒は司教駒に、戦車駒は裁判官駒になった。近代になると、チェスは市民層に広まり、20世紀には世界的規模で普及した。今日では、2年に1度、チェスの③オリンピックと呼ばれる国や地域別の対抗団体戦も開催されている。

問1 下線部①について述べた次の文aとbの正誤の組合せとして正しいものを、
下の①～④のうちから一つ選べ。 28

- a ヒッタイト人は、戦車の使用によって、モンゴル高原に勢力を広げた。
b 第一次世界大戦では、新兵器として戦車(タンク)が用いられた。

- ① a－正 b－正
② a－正 b－誤
③ a－誤 b－正
④ a－誤 b－誤

問2 下線部②に関連して、世界史上の女王について述べた文として正しいものを、

次の①～④のうちから一つ選べ。 29

- ① 女王クレオパトラは、テル=エル=アマルナに遷都した。
- ② 女王卑弥呼は、北魏から親魏倭王の称号を得た。
- ③ イサベル女王は、カブラルを援助した。
- ④ アン女王の治世下で、大ブリテン(グレートブリテン)王国が成立した。

問3 下線部③に関連して、近代オリンピックの開催地となった国や都市の歴史について述べた文として波線部の正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

30

- ① 第1回大会が開催されたアテネでは、古代にリュクルゴスの下で、民主政が完成した。
- ② 1984年のロサンゼルス大会は、「強いアメリカ」を掲げたブレア政権の下で、開催された。
- ③ 第24回大会が開催されたソウルは、かつて慶州と呼ばれた。
- ④ 2000年のシドニー大会が開催されたオーストラリアでは、先住民はアボリジニ(アボリジニー)と呼ばれている。

B 古代の④中国に起源を持つとされるじゃんけんは、現在、世界大会が開かれる⑤競技であり、40以上の国や地域で行われる遊戯となっている。中国から東西に広まったじゃんけんは、^{けん}拳の形やそれが表すものにおいて、共通性が見いだせる。例えば、グー・チョキ・パーの拳の形が、それぞれ石・ハサミ・紙を表している点は、日本・イギリス・ブラジルにおいて共通している。また、じゃんけんの特性として、単純な二項対立の関係ではなく、⑥三者が牽制し合う関係や、共存する関係が存在することも、指摘できる。

問4 下線部④の国から伝わった制度や文物について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 31

- ① 羅針盤が、ヨーロッパで改良・実用化された。
- ② 製紙法が、モンゴル軍の遠征によって、イスラーム世界に伝えられた。
- ③ 養蚕の技術が、ビザンツ帝国で取り入れられた。
- ④ 科挙が、朝鮮(李朝)で実施された。

問5 下線部⑤に関連して、競技や闘技が行われた場について述べた次の文aとbの正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 32

- a ペルセポリスに、コロッセウムが造られた。
- b ネーデルラントで、球戯場の誓いが行われた。

- ① a - 正 b - 正
- ② a - 正 b - 誤
- ③ a - 誤 b - 正
- ④ a - 誤 b - 誤

問6 下線部⑥に関連して、20世紀以降のアメリカ合衆国が日本・中国と関わった出来事について述べた次の文a～cが、年代の古いものから順に正しく配列されているものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 33

- a 日本・中国とともに、九か国条約に参加した。
- b ニクソンが訪中した年に、日中国交の正常化がなされた
- c 日本に対抗して、中国などとともに、「A B C D ライン(A B C D 包囲網)」と呼ばれる政策を採った。

- ① a → b → c
- ② a → c → b
- ③ b → a → c
- ④ b → c → a
- ⑤ c → a → b
- ⑥ c → b → a

C 中国で生まれた盤上遊戯である囲碁にまつわる伝承によれば、碁盤は、⑦大地と天体を模倣したものとされる。江戸時代の日本で、囲碁の家元に生まれた安井算哲(渋川春海)が、宣命曆に代えて⑧貞享曆を作成したこともうなづける。また、黑白の碁石を打ち合うシンプルなゲームである囲碁は、文化的背景を異にする者同士でも対局が可能である。⑨長安(現在の西安)を都とする唐に渡った吉備真備が、玄宗の面前で唐の囲碁の名手と対局し、勝利を収めたという説話が伝えられている。20世紀に入ると、日本に活躍の場を求める中国人棋士も現れた。日本人棋士を圧倒した吳清源や林海峯は、その代表的存在である。



唐の名手と囲碁の対局をする吉備真備(碁盤の左側の人物)

問 7 下線部⑦に関連して、歴史上、宇宙を論じた思想や人物について述べた次の文 a と b の正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

34

- a 宋学は、宇宙の原理や人間の本質などを探究した。
- b アリストルコスは、天動説を唱えた。

- ① a－正 b－正
- ② a－正 b－誤
- ③ a－誤 b－正
- ④ a－誤 b－誤

問 8 下線部⑧について述べた次の文中の空欄 [ア] と [イ] に入る語の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 35

貞享暦は、中国の [ア] の時代に、[イ] によって作られた授時暦を改訂して、日本の実情に合うようにしたものである。

- ① ア－元 イ－顧炎武
- ② ア－元 イ－郭守敬
- ③ ア－清 イ－顧炎武
- ④ ア－清 イ－郭守敬

問 9 下線部⑨の都市で起こった歴史上の出来事について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 36

- ① 明の洪武帝が、都を置いた。
- ② 長征を終えた中国共産党が、根拠地を置いた。
- ③ 張学良が、蒋介石を捕らえ、抗日を強く迫る事件が起こった。
- ④ 日中戦争の期間中、国民政府が、首都を移した。

【解説】

第1問 世界史上の帝国の支配とその影響

A

リード文Aは、五賢帝時代の終了から「3世紀の危機」へ向かう帝政ローマの様子を述べている。

P.91の地図から見てとれるように、ローマ帝国は地中海とその周辺に属州を拡大し、ドナウ川以北のダキアも獲得していた。東方ではパルティアが「ライバル」となっている。しかし、帝国の膨張は内部対立と外敵の侵入の原因にもなった。P.90の1で、軍人皇帝時代の到来とゲルマン人やササン朝の侵入を確認したい。

その後に登場するディオクレティアヌスやコンスタンティヌスは、皇帝崇拜・官僚制整備・キリスト教公認などそれぞれのやり方で、危機に対処するのである。

問1 正解④ (2世紀の出来事) 1

センター試験ではおなじみの「○世紀の出来事」という問題。P.16の全体地図で確認できる。後漢とローマ帝国の間に、パルティア・クシャーナ朝を経由して陸路で、サーダヴァーハナ朝・扶南・林邑を経由して海路でも、人とモノの交流があったことがわかる。具体的にはシリアに至った甘英、日南に至った大秦王安敦の使者(自称)、南インドや東南アジアから出土するローマの金貨などである。

①ハルシャ=ヴァルダナの王国には唐僧玄奘が訪れており、7世紀の出来事である。

P.98の1、P.27の全体地図などで確認しよう。

②赤眉の乱は王莽の政策に反発するもので1世紀の出来事。民衆反乱はきっちりと整理したいポイントの1つなので、巻末の中国王朝の変遷を参照しよう。

③ローマ帝国のキリスト教公認はコンスタンティヌス帝のミラノ勅令によるもので、4世紀の出来事。P.94の1で、1世紀の原始キリスト教成立→その後の迫害→ディオクレティアヌスによる大規模な迫害→公認という流れを整理したい。

問2 正解③ (パルティアの歴史) 2

アケメネス朝・パルティア・ササン朝の古代イラン系国家は相互比較しておきた

い。P. 77 の②が最適。これらの国家はいずれも東西交易で栄えたため、地中海やインドとの関係もおさえることが重要である。P. 76 の地図AからCで確認しよう。

③ダレイオス1世はアケメネス朝の全盛期を現出した王。帝国の領土もエーゲ海を越えてギリシア側に到達している。P. 74 の地図B参照。

問3 正解④ (ブリテン島の歴史) 3

ブリテン島(グレートブリテン島)は、現在のイギリスの国土の大半を占める島。

①ポエニ戦争はフェニキア人との抗争で、西地中海をめぐる戦い。P. 89 の地図Cなど参照。ブリテン島がローマの支配下に置かれるのは1世紀のこと。五賢帝時代には、ハドリアヌスによって長城が築かれた(P. 90 写真④)。

②ブリテン島(イギリス)の歴史を考えるときは、ノルマン人の動きを忘れてはならない。P. 136 の②を見て、ローマ帝国領→アングロ=サクソン七王国の成立→ノルマン系デーン人の侵入失敗(アルフレッド大王が撃退)→デーン人がイングランド征服(デンマーク王子クヌートによる)→北フランスのノルマンディー公によるイングランド征服、という流れを確認したい。

③アヴァール人を撃退するのはカール大帝。P. 135 の②参照。

④ノルマン朝とプランタジネット朝はフランスにも領地を持っていたため、イングランド王とフランス王の関係は複雑であった。P. 147 の⑤の地図B・C参照。フランスのアンジュー伯アンリがイングランド王に即位し(ヘンリ2世)，プランタジネット朝が成立した。

B

ウィーンを中心とするハプスブルク家を君主とする帝国の盛衰については、P. 202 の地図[B]、P. 230 の地図[A]および P. 268 の地図[A]を見たい。ウィーンの持つ多文化共栄の雰囲気については P. 230 のコラムを、冷戦時代の特殊な地位については P. 56 のヨーロッパ拡大地図を見たい。スイスとともにオーストリアが、東西どちらの陣営の軍事機構にも属していないことが確認できる。

問4 正解① (ハプスブルク家の君主の事績) 4

①啓蒙専制主義は、経済発展や市民層の台頭が遅れていた東欧諸国に見られやすい。

ヴォルテールと親交のあったフリードリヒ2世(P. 202)、その支配下のプロイセンとしばしば対立したオーストリアのヨーゼフ2世(P. 202)などが有名。さらに、この2人とともにポーランド分割(P. 203 の[3])を行ったロシアのエカチェリーナ2世も、啓蒙専制君主に数えられる。

②百年戦争の一因は、イギリスのエドワード3世がフランス王位継承権を主張したことにある(P. 148[1]参照)。

③④フリードリヒ2世はプロイセンの君主。彼が造営したサンスーシ宮殿はロココ様式の傑作(P. 209 の写真⑥⑦参照)。プロイセン興隆の基礎をつくったフリードリヒ=ヴィルヘルム1世については P. 202 参照。

②～④は事象としては正しいが、ハプスブルク家の君主ではないため誤り。

問5 正解② (旅行に関わる書物) 5

①②近世ヨーロッパの文学はピューリタン文学・風刺文学など、政治の動向と結びついたものが多い。それぞれの特徴については P. 206 の[1]で、具体的な作品としては P. 209 の[2]で確認しよう。

③④P. 115 の[2]参照。仏団澄は鳩摩羅什らとともに南北朝時代の渡来僧として有名。『仏国記』を著した法顯は南北朝時代の渡印僧。『南海寄帰内法伝』は義淨が著したもので、彼はハルシャ=ヴァルダナの王国以後の分裂期のインドに海路渡印した。整理が必要なため、P. 119 のコラムを確認しよう。孔穎達は儒学者で『五經正義』を著し、唐代訓詁学の発展に寄与した。こちらは P. 118 の[1]。

問 6 正解③ (冷戦) 6

第二次世界大戦後の概観のページ(P. 284)にすべての関連事項が掲載されている。

- ①P. 296 の1にあるように、金日成による朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)と、李承晩による大韓民国(韓国)の成立後、朝鮮戦争が勃発する。その経過や国際的影響については同ページの2に詳しい。
- ②ドイツとベルリンの分割占領(P. 286)は、ベルリン封鎖という一触即発の事態を生んだ(P. 286 の写真②)。封鎖自体は解除されたが、その後、ドイツとベルリンは東西に分断される。
- ③冷戦終結を象徴するのはブッシュとゴルバチョフのマルタ会談(P. 291 写真⑩)。突然の出来事ではなく、INF全廃条約やベルリンの壁崩壊など前ぶれはあった。
- ④トルーマンについてはP. 286 の人物コラムを参照。共産主義に対する「封じ込め政策」が冷戦構造を確定的にした。

C

オーストラリアの歩みについては、P. 258 の[2]参照。ニュージーランドとともに20世紀前半にはウェストミンスター憲章を批准し、イギリス連邦の一員となっている。また、オーストラリア・ニュージーランドはカナダ・南アフリカと同様、イギリスの五大自治植民地(P. 225 の[1])に数えられ、アジア・アフリカの他の植民地とは一線を画していた。

問7 正解④ (オーストラリア連邦の成立時期) [7]

P. 225 の[1]から見てとれるように、イギリスの五大自治植民地の多くは20世紀初めに成立する。また、P. 258 の[2]でオーストラリアは南アフリカ戦争に派兵中に連邦として独立したこと、同時に自豪主義を採用して、アジア・太平洋の一角で「ヨーロッパ」としての地位を保ったことを確認したい。

問8 正解③ (ビザンツ帝国とムガル帝国の公用語) [8]

公用語はしばしば、ある文化の影響圏を示すので、注意したい。

- a P. 139 を見よう。ローマ帝国の東西分裂後、ほどなく西ローマ帝国は滅亡するが、ビザンツ帝国は「ローマ的伝統」を維持した。しかし、ゲルマン人やイスラーム勢力の攻勢によって次第に領土を失い、「ギリシア的社會」の帝国に変貌していく。7世紀のギリシア語の公用語化や11世紀のギリシア正教会の成立を確認したい。
- b イスラーム世界では王朝の民族系統に関係なく、イラン系の官僚やペルシア語文学が大きな影響力を持っていた。例えばP. 128ではイラン系の文化人(赤字)が多く活躍したことが見てとれる。P. 181 の[4]に見られるように、トルコ系イスラーム国家のムガル帝国でも公用語はペルシア語であった。ウルドゥー語の成立にもペルシア語が影響していた。

問9 正解③ (世界史上の植民地) [9]

- ①ジョゼフ=チェンバレンはイギリスの植民相で、首相ディズレーリとともに帝国主義政策を展開した。P. 256 参照。
- ②トゥサン=ルヴェルチュールは P. 224 参照。ラテンアメリカ最初の独立国(ハイチ)

成立に尽力した人物。

③フィリピンの民族運動に関わったホセ=リサールやアギナルドについては、P. 247

の[4]参照。東南アジア各国の独立過程には共通点・相違点がある。P. 247 や P. 273
の[6]を見て整理したい。

④ネルーはガンディーと並び称されるインド独立運動の中心人物で、第二次世界大
戦後は第三世界を代表する政治家の一人となった。P. 273 の[5]でラホール大会を
指導したこと、P. 297[1]で独立後のインドの初代首相となったこと、P. 289 の[2]で
平和五原則の発表を行ったこと、などを確認しよう。

第2問 世界史上の港町

A

リード文にあるような中国と海洋ネットワークの結びつきについては、P. 160などを参照。同ページの13世紀の図を見ると、泉州の位置づけやムスリム商人の役割も理解しやすい。

問1 正解① (世界史上の交易) 10

①P. 73 の[2]参照。「海の民」侵入後の東地中海ではアラム人・フェニキア人・ヘブライ人がそれぞれ、歴史上重要な役割を果たす。陸上交易で活躍しアラム文字を普及させたアラム人、海上交易を発展させアルファベットの原型となるフェニキア文字をつくったフェニキア人、ユダヤ教の基礎信仰を形成したヘブライ人、といった諸民族の特徴をおさえておこう。

②P. 131 の[5]参照。現在もサハラのキャラバンは岩塩を扱っている(写真④参照)。アフリカについては、キリスト教を受容したアクスム王国、イスラーム化したマリ王国、交易に伴いスワヒリ文化が発展した東部海岸都市などもP. 131で整理できる。アジアと欧米に偏った学習にならないよう、この機会に確認したい。

③マラッカを含む東南アジアは近年、中国・日本・インド方面とも結びつく海域世界として注目されている。P. 168 の[2]を見て、明の朝貢交易圏の中心にマラッカ王国があることを確認しよう。

④アラブ人あるいはメッカの交易活動についてはP. 122 の[1]を参照。ムハンマド自身も商人の家柄であった(P. 122 の写真②の解説参照)。

問2 正解② (広州) 11

清の歴代皇帝による交易政策やキリスト教に対する政策については、P. 170 の[1]で確認。乾隆帝時代にヨーロッパ船の貿易港が広州に指定された。広州は寧波(明州)などとともに宋代の市舶司も置かれていた(P. 154 の地図[A])。

問3 正解② (アフリカ東海岸の港町) 12

a マリンディでは商業活動に伴い、アフリカ文化とイスラーム文化が融合してス

ワヒリ文化が生じた。P. 131 の[6]に詳しい。

b ポンディシェリはインド東岸の都市。ヨーロッパ諸国がアジア各地に拠点を築いて行く過程は P. 210 の[1]や P. 211 地図[A]・[B]で整理したい。18世紀半ばまで続いた英仏の植民地獲得競争は、イギリスの勝利で一段落する。各国の勢力盛衰も P. 210 の[1]で確認できる。

B

リード文の通り、大航海時代以降のヨーロッパでは商業の中心がイタリアから大西洋岸に移り（商業革命）、付随して様々な影響が見られた。大航海時代の先駆けとなったポルトガル・スペインの動きについてはP.182の[1]、商業革命やこれに伴う価格革命についてはP.183の[3]を参照。

問4 正解①（ポルトガルの歴史）[13]

- ①ポルトガルとスペインの進出競争は「縄張り確定」の必要性をもたらし、トルデシリヤス条約・サラゴサ条約が締結された。その境界線はP.183の地図[A]参照。
- ②フォークランド戦争は、フォークランド諸島の領有をめぐっておこったイギリス・アルゼンチン間の戦争。P.308参照。
- ③カルマル同盟はデンマークを中心とする北欧3国の同盟で、P.149の地図[B]と解説で確認できる。北欧3国の歴史は教科書でも扱いが少ないが、P.231でテーマとして扱っているので、一度整理して弱点を無くしておきたい。
- ④ポーランドは第一次世界大戦後の東欧独立国一つだが（P.266の[1]の地図）、第二次世界大戦勃発に際してドイツとソ連の侵攻を受けた（P.280の[2]）。P.280の地図[A]で見ると、ポルトガルはどちらの陣営にも属していない。

問5 正解①（ゴア）[14]

ゴアは1510年にポルトガルが占領し、アジア進出の拠点としたインド東岸の都市。ヨーロッパ諸国の植民活動についてはP.210～212で整理できるが、時系列で追うだけでなく、地図をしっかりと利用して地理的把握も行っておこう。

問6 正解④（イタリアの歴史）[15]

- ①ギリシア人の植民についてはP.79の[3]参照。共和政ローマの領土拡大過程の地図（P.88の地図[A]）でも、ギリシア人の居住地域が見てとれる。
- ②ゲルマン国家の一つランゴバルド王国は北イタリアに成立した。P.134の地図[A]で確認しよう。この国をカール大帝が滅ぼしたこと、教皇との結びつきを強め、「戴冠」に至る。P.135の[2]を見て整理したい。
- ③イタリア=ルネサンスの保護者として名高いメディチ家については、P.189に用語

解説があるので確認しておこう。メディチ家の拠点といえるフィレンツェの位置は、当時のイタリア(分裂状態)の地図上で確認したい(P. 188 の地図A)。

④ヴィットーリオ=エマヌエーレ2世については P. 228 の[1]で確認。首相カヴァルの手腕やガリバルディの征服活動を得て、イタリア国王となる。ローマ進軍はイタリアのファシズムの台頭を示す出来事で、ドイツのミュンヘン一揆とほぼ同時期である。1920年代のヨーロッパでは敗戦国のみならず、イギリス・フランスでも不況を背景に左翼勢力の拡大が見られた。左翼の動きを暴力的に封じようとしたのがファシズムである。P. 268 の[1]や P. 269 の[4]などで確認しよう。

C

問 7 正解③ (織維の原料や製品) 16

- ①P. 154 の [3] に江南開発のまとめがある。魏晋南北朝時代に江南への移住者が急増し、南宋の頃に「蘇湖熟すれば天下足る」といわれるほどの穀倉地帯に発展した。明代以降には「湖廣熟すれば天下足る」といわれ、綿織物業が副業として発展する。明清時代の産業については P. 172 で確認しよう。綿織物や米は山西商人・徽州商人の扱う重要な物産であった。
- ②産業革命の技術発展史については P. 213 の [1] や [3] を見よう。ジョン=ケイの飛び杼の発明で綿糸の不足が起こり、各種紡績機が発明された。その結果、今度は綿糸の過剰供給が起こり、蒸気機関を用いた力織機の発明が促される。人物名と機械を単純に対応させるよりも、流れを意識したい。
- ③アメリカ南部では奴隸を使役した大規模な綿花プランテーションが発達し、奴隸制をめぐる南部と北部の対立は南北戦争の一因となった。P. 213 を見よう。
- ④P. 254 にもあるように、19世紀後半の第2次産業革命で電気や石油の利用が広まった。したがって、ナイロン開発の時期として18世紀はおかしい。

問 8 正解② (ヨーロッパ諸国の通商活動) 17

- a P. 183 の [3] を確認しよう。ヴェネツィアなどの北イタリア諸都市に向かって、アジアからの奢侈品が入っている。この流れを変えたのが大航海時代の到来である。
- b カピチュレーションについては P. 179 に解説があるので確認しよう。オスマン帝国はスレイマン1世の死後の 1569 年にフランスにカピチュレーションを付与し (P. 178 の [1] 参照)，後にイギリスやオランダにも与えた。

問 9 正解② (ギリシアの独立) 18

- P. 223 の [2] を参照。ウィーン体制はフランス革命に対する反動のようなもので、自由主義をおさえ込もうとする側面が強い。一方でフランス革命から「輸出」された自由の理念は各地のナショナリズムにも火をつけ、ラテンアメリカ・ギリシアの独立運動が成功した。ギリシアが独立できたのは、オスマン帝国の支配からギリシア

を切り離すことで利益を得る英仏露の援助があったため(P. 232 の[1])，以降，バルカン半島をめぐる東方問題が顕在化する契機となった。

ウィーン体制下の自由主義やナショナリズムの動きは P. 223 の[2]のように 3 波に分けて考えたい。また，ポーランドのように独立できなかつた地域もある。

第3問 世界史上の軍隊

A

リード文に述べられている傭兵についてはP.200の写真③の解説や人物コラムを参照。三十年戦争の主役の1人ヴァレンシュタインも、傭兵を率いて戦った軍人の代表である。

問1 正解④（三十年戦争） 19

P.200で三十年戦争の経過を確認しよう。同戦争は宗教戦争として最大級であるが、デンマーク・スウェーデンなどのプロテスタント側にカトリック国のフランスも加わっていることに注意。ハプスブルク家とフランス王家の抗争がここにもあらわれている。戦争後半にグスタフ=アドルフとヴァレンシュタインの戦いが見られる。

リュシューはフランス国王ルイ13世のもとで宰相をつとめ、三十年戦争への介入に関わった。P.201を参照。ミハイル=ロマノフはロシアのロマノフ朝を創始した人物。P.204の[1]で確認。

問2 正解④（フランスの軍隊の歴史） 20

①クレシーの戦いはP.147写真⑦の解説を参照。百年戦争の前半はイギリスが優位に立っており、この戦いでは兵器の差がものをいった。フランス劣勢の戦況を覆す契機といわれるジャンヌ=ダルクの活躍については、同ページの人物コラムを見てほしい。

②P.232を参照。クリミア戦争はロシアの南下政策の失敗を象徴している。ロシアがギリシア正教徒の保護を名目にオスマン帝国と開戦したのに対し、ロシアの南下政策を警戒するイギリス・フランスはオスマン帝国側に立って参戦した。P.233の[2]でも見てとれるように、この戦争での敗北はロシアに衝撃を与え、農奴解放令へつながっていく。フランスにとってのクリミア戦争は、ナポレオン3世がめざした「フランスの栄光」を高めるための対外戦争の一つであった。P.227の[6]参照。

③P.228で、プロイセン=フランス戦争の結果ドイツ帝国が成立したこと、アルザス・ロレーヌをドイツが得たことを確認。アルザス・ロレーヌをめぐる争いにつ

いては、同ページの用語解説で確認しておこう。

④インドシナ戦争末期のディエンビエンフーの戦いにフランスが敗れ、ジュネーヴ休戦協定調印に至った(P. 299 の1)。これによりベトナムは南北分離状態となるが、その後、アメリカ・ソ連・中国を巻き込んだベトナム戦争に突入していく。

問3 正解③ (世界史上の税制) 21

①P. 126 の2で、アター制とイクター制の相違を確認。イクター制はブワifik朝・セルジューク朝以降、多くのイスラーム国家で採用された。

②賦役黄冊は明の洪武帝時代の事象。P. 166 の1で、洪武帝の他の事績も整理しよう。北宋時代の富国策としては王安石の新法が重要。P. 153 で背景とともに整理したい。

③ザミンダーリー制についてはP. 245 の4を確認。

④イギリス革命の展開はP. 205 で整理する必要がある。各派の主張や動きだけでなく、アイルランドやオランダなど海外との関係、権利の請願・人身保護法・権利の章典等の重要文書など、多面的に見ておきたい。P. 356 には関係文書の解説があるので、出題されているポイントを確認しておこう。

B

問 4 正解④ (清の軍隊) 22

P. 37 の全体地図を見ると、中国東北部は女真(金)の支配下にある。P. 43 で 15 世紀の様子を見よう。同地域は明の支配下であるが、女直(女真)の居住がうかがえる。P. 167 の5を見よう。16 世紀の後半にヌルハチが女真をまとめ、八旗を率いて 1616 年に後金を建国する。

猛安・謀克は南宋と対峙した金の統治制度で、P. 153 の3に掲載。

問 5 正解① (世界史上の都市) 23

①アズハル学院はカイロに成立した、現存ではイスラーム世界最古の学府。P. 126 の写真①参照。イスラームの教育機関としては、セルジューク朝のニザーミーヤ学院にも注意(P. 125 写真⑧の解説参照)。アレクサンドリアで有名な学府はプトレマイオス朝時代のムセイオンで、P. 83 を確認。ヘレニズム文化の学問的発展を象徴する場所であった。

②カンボジアのアンコール=ワットと、インドネシア(ジャワ島)のボロブドゥールは東南アジア古代史の二大遺産といえる。アンコール=トムはアンコール=ワットに隣接する都城である。王都の復元図も含めて P. 101 に詳しい。

③P. 255 に社会主義に関するまとめがある。インターナショナルの本部・中心政党・解散した理由などは当時の世界情勢を反映しているので、確認しておきたい。

④中国で綿織物や陶磁器産業が本格化したのは明清代。P. 172 の1や地図Aで確認できる。

問 6 正解⑥ (遊牧国家の歴史) 24

広い地域にまたがる問題は、全体地図を利用して確認したい。

- a P. 37 で、金の建国、耶律大石の西遷、西遼(カラ=キタイ)の成立、を確認しよう。
- b P. 22・23 で、突厥・ササン朝とエフタルの関係を確認。しかし、5 世紀のエフタルは勢力を拡大し最盛期へ向かっている。滅ぼされるのは次世紀になる。
- c P. 22・23 で、フン人が西進してヨーロッパに進出したことを確認し、P. 134 で、

アッティラ率いるフン人が西ローマ・ゲルマン連合に敗北したことを確認しよう

C

リード文にある、第一次世界大戦への日本の参戦については、P. 261 右下参照。中国も連合国側に加わっており、戦勝国となるが、山東権益の返還要求が受け入れられず、ヴェルサイユ条約には署名しなかった。

問7 正解② (第一次世界大戦への日米の参戦理由) 25

- a は正しい。P. 260 の [1] を見て第一次世界大戦に至る国際関係の推移を確認したい。この流れ図は最重要事項の一つと考えて良い。第一次世界大戦を経て日本の勢力拡大に懸念を抱いた欧米諸国はワシントン体制を構築し、四カ国条約で日英同盟の廃棄が決定した。P. 267 でヴェルサイユ体制とワシントン体制の整理もしておこう。
- b の真珠湾攻撃については P. 281 の写真⑦参照。基本的な事項だが、緊張や焦りでケアレスミスの無いようにしよう。

問8 正解② (オーストリア=ハンガリー帝国構成地域の歴史) 26

- ①P. 278 の [1] でナチ党ドイツの動きを追ってみよう。再軍備宣言からラインラント進駐、オーストリア併合、ズデーテン獲得と勢力拡大の動きを加速させていく。背景にはイギリスなどの宥和政策(P. 280 の写真①参照)があった。
- ②ミュンヘン会談は宥和政策の象徴となる。P. 280 の写真①参照
- ③1920 年代の東欧については P. 268 の [2] 参照。王政や独裁体制が多いものの社会主義国ではない。この頃はソ連の社会主义化に対して、他の国々の警戒が強かつた。ただし、年表をよく見ると、第二次世界大戦において「ソ連軍による解放」といった記述が各国で見られる。第二次世界大戦後、東欧はソ連の衛星国となっていく。
- ④P. 242 の [2] でオスマン帝国の改革の流れを確認しよう。タンジマート→ミドハト憲法→憲法停止→青年トルコ革命と流れ動いていく。青年トルコ革命を好機として、オーストリア=ハンガリー帝国はボスニア・ヘルツェゴヴィナを併合し、セルビアとの対立を招いた。なお、ボスニア・ヘルツェゴヴィナはユーゴスラヴィアの解体とともに独立した。P. 293 の [4] を見よう。ボスニア以南にはオスマン帝国統治時代の影響で、東方正教徒のほかムスリムが多く、紛争の原因となっている。

問9 正解④ (捕虜の処遇) 27

日本の朝鮮支配については P. 252 を参照。1897 年に国号を大韓帝国と改称し、高宗が皇帝となってからも、日本側の態度は変わらず、抗日義兵闘争やハーグ密使事件に至る。年表に書かれているので確認しておこう。

第4問 世界史上の遊戯やその伝播と受容

A

問1 正解③ (戦車の歴史) 28

- a 馬と戦車の戦術が古代帝国の基礎であることは確か。P. 71 のコラムを読んでほしい。ヒッタイトはこれに製鉄技術も加えてアナトリアなどを支配し、シリアをめぐってエジプトと争った。P. 70 の1とP. 71 の地図Bを参照。
- b 第一次世界大戦の新兵器についてはP. 262 のコラムを参照。戦車・戦闘機・潜水艦などを多用した長期戦は「総力戦」となり、戦中・戦後に大きな影響を与えた。

問2 正解④ (世界史上の女王) 29

①古代エジプトのファラオの中で、神官団の影響力を避けてテル=エル=アマルナに遷都したのはアメンホテプ4世。P. 72 の人物コラム参照。同ファラオの息子または娘婿が有名なツタンカーメンである(P. 73 コラム)。クレオパトラはプトレマイオス朝エジプトの最後の女王で(P. 89 人物コラム)，カエサルの寵愛を受けた。彼女の死とプトレマイオス朝の滅亡は、ヘレニズム時代の終焉とローマの地中海支配の確立を意味する。

②日本と中国の間の朝貢関係については、後漢の光武帝から授かったとされる「漢委奴国王」と刻まれた金印が有名(P. 15 写真①参照)。印綬にもそれぞれデザインがあって面白い。魏晋南北朝時代の日中関係は P. 114。邪馬台国の卑弥呼の親魏倭王の称号は、三国時代の魏から授かったもの。倭の五王が朝貢したのは南朝である。

③大航海時代の探検には国王などのパトロンがつきもので、スペイン・ポルトガル両国は競って探検航海を行わせた。P. 182 の1を参照して、イサベル1世・カルロス1世時代のスペインの航海者や、ポルトガルの航海者を整理しよう。どこに行き、どのような役割を果たしたかは P. 183 の地図Aで確認しよう。

④P. 205 で確認。前後の国王に比べて注目度が低いが、選択肢①②③ははつきりと間違った内容なので、正解は導きやすい。イングランドのウェールズ併合は 13世紀、スコットランド併合が 1707 年(アン女王のとき)、アイルランド併合が 1801

年(ジョージ3世のとき)である。2014年にイギリスからの分離・独立を問う住民投票がスコットランドで行われ話題になった(P. 309 参照)。

問3 正解④ (近代オリンピックの開催地の歴史) 30

P. 241にオリンピックに関するコラムがあるので、見てほしい。

①ギリシアの歴史はアテネの民主政の成立過程として、P. 80の[1]のように語られることが多いが、すべてのポリスが同じ経過をたどったわけではない。しばしば比較されるのはスパルタである(同ページの[3])。スパルタではペリオイコイ・ヘイロータイのような民主政治に参加できない人々がおり、リュクルゴス制とよばれる軍国的・鎖国的体制がしかれた。

②P. 291の[5]参照。ソ連のアフガニスタン侵攻を受けて「強いアメリカ」を掲げたのは、アメリカのレーガン大統領。しかし、このような政策が「双子の赤字」を生じさせた。1980年のモスクワオリンピックをアメリカや日本がボイコットしたのはこの頃だが、当時の大統領はレーガンではなくカーター。レーガン大統領の下で開催されたロサンゼルスオリンピックでは逆に、ソ連などがボイコットしている。

ブレアはイギリスの首相で、P. 308に掲載。

③慶州は新羅の都で、P. 175に掲載。ソウルは漢城と呼ばれていた。

④P. 258の[2]。ニュージーランドの先住民マオリとともに知っておきたい。

B

問 4 正解② (中国から伝わった制度や文物) 31

- ①P. 193 でルネサンスの三大改良を確認。「発明」ではないが、おさえておきたい知識と言える。
- ②P. 112 のコラムで製紙法について整理したい。製紙法がイスラーム世界に伝播する契機となったタラス河畔の戦いについては P. 29 も見て、アッバース朝と唐の戦いであることを確認しよう。モンゴル帝国時代の中国－イスラーム文化の交流としては、ミニアチュール・授時暦・染付などがあげられる。P. 165 で確認しておきたい。
- ③養蚕は新石器時代の中国で始まった。中国産の絹は、シルク＝ロードや海の道を通じてヨーロッパに伝えられ、権力者や富裕者が競って求めた。中国は絹の製法を長らく秘密にしていたが、P. 139 にあるように、6世紀にはビザンツ帝国に伝わった。
- ④P. 174 の2で新羅・高麗・朝鮮の特徴を比較しよう。新羅の骨品制(血縁的貴族制)に対し、高麗・朝鮮では両班の台頭が目立つ。P. 175 もあわせて参考し、両班勢力の確立の裏に、科挙の採用があることを把握しておこう。

問 5 正解④ (競技や闘技が行われた場) 32

- a ペルセポリスの写真は P. 75 にある(写真⑩)。儀式用の巨大な宮殿であり、多民族国家アケメネス朝を象徴していた。コロッセウムは古代ローマの市民に見世物を提供した場所である。P. 93 の写真⑩のように円形をしており、首都ローマ以外にも多くの都市にあった。
- b 球戯場の誓いはフランス革命初期の出来事で、憲法制定のスタート地点になる。P. 218 にその様子を伝える絵画が掲載されているが(写真⑤)，革命に関連する出来事や人物の絵画はダヴィドによるものが多い。

問 6 正解② (20世紀以降のアメリカと日本・中国との関わり) 33

- a 九カ国条約は第一次世界大戦後のワシントン会議で結ばれた条約で、中国の領土保全などを定めた。P. 267 参照。

- b ニクソン訪中は、ベトナム戦争でアメリカの威信が低下した時代の出来事。ニクソンはベトナムからの名誉ある撤退をねらい、中国・ソ連との関係改善を模索していた。P. 290 の[2]の図式を見ておきたい。
- c A B C D ラインは第二次世界大戦中の対日包囲網で、P. 280 の[1]参照。

C

問7 正解② (宇宙を論じた思想や人物) 34

- a 宋学の本質をきっちり理解するのは難しいが、宇宙・世界の全体像を説明しようとした壮大な哲学大系であることはおさえておこう。P. 155 の4を参照。漢代の五經博士の設置と対比して、宋学の四書重視もおさえておこう。
- b P. 84 の2参照。アリストルコスはヘレニズム文化の自然科学を代表する人物のひとりで、地球の自転と公転を主張した。地動説をめぐる議論が何年後にヨーロッパで巻き起こったか、改めて確認しなおしてみよう。

問8 正解②または④ (貞享暦) 35

日本語の言い回しの関係で、正解が2つになったが、問題の主旨は明快。P. 165の写真⑥に解説があるので読んでほしい。

問9 正解③ (長安で起こった歴史上の出来事) 36

- ①後見返しに中国史上の首都と重要都市の変遷がまとめてあるので、歴代の都と名称を整理してみよう。黄河寄りから、次第に大運河寄りに移っていく。明代の都是、永楽帝時代の南海遠征の始まる頃までは南京であったが、その後、タタール・オイラトなどに対抗する必要もあり、北京に遷都された。
- ②③P. 274・275をじっくりと見て、上海クーデタと南京国民政府の成立、張学良が蒋介石を監禁した西安事件、共産党の瑞金から延安への長征など、地図上での位置も含めて確認しよう。
- ④日中戦争中、抗日の拠点となり国民政府も遷ったのは重慶。ここを脱出して日本に和平を呼びかけ、南京に中華民国国民政府を樹立したのが汪兆銘である(P. 281の年表)。もちろん、形式的な政府に過ぎず、汪兆銘は抗戦派に激しく非難された。